

発表事例募集のご案内

第3回モノづくり

現場発信のDX大会

会場：ポートメッセなごや

2027.2.17 (水)

開催予定

今年度より
製造業の現場主体で
推進したDXに関する発表事例募集を開始！

※1発表、25分の枠となります（発表時間：20分、感想・質疑応答：5分）

募集テーマ例



IoTによる
設備異常の早期検知



安価なツール・AI活用



デジタルを活用した
人手不足対応



データを活用した
ムダ・待ち時間の削減



技能伝承・標準化



点検・保全の自動化



紙帳票のデジタル化



その他・現場発想の
デジタル改善

※詳細はモノづくり現場発信のDX大会の公式サイトをご確認ください

募集期間・募集方法

2026 8.10 - 10.16

モノづくり現場発信のDX大会
公式サイトより申込ください

<https://info-jipm.jp/event/monodukuridx/>の発表お申込みをご参照ください

※発表方法や大会開催の詳細は、専用サイトにて順次公開します

※大会趣旨と大きく異なるご発表の場合は、内容のご調整や、場合によってはご発表をご遠慮させていただく場合がございます
必ず、「第3回モノづくり現場発信のDX大会の発表募集要領」をご確認の上、お申込みください。



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
Japan Institute of Plant Maintenance

普及推進部 TEL : 0120-451-466 (または03-6865-6081)
E-mail : event@jipm.or.jp

●—● なぜ、いま、現場発信のDXが重要なのか —●



公益社団法人日本プラントメンテナンス協会
会長 河合 満

近年、日本のモノづくりは、IoT・AIなどの進化によりDXが急速に進展しています。

しかし、市販ソフトウェアを導入しても、費用対効果のバランスがとれないことや、過剰な機能が備わっているケースがあります。

DXにおける重要な点は、製造現場を熟知した自分たちの手で、現場のデジタル化を進めることです。市販ソフトウェアに頼るばかりではなく、現場の知恵とくふうを取り入れ、**実際の現場の困りごとを中心としたデジタル改善「現場発信のDX」が大切**です。また、デジタルに強い若手と、現場を熟知したベテランとのコンビネーションが重要です。これが企業の力であり、差別化となります。

さらに、現在は、各々のDXの取り組みを相互に繋げて、面で広げていく段階に達しています。職場を超え、海外工場ともデータと人が繋がるネットワークが実現しつつあります。

設備管理の分野においてもDXの進展は例外ではなく、むしろ、高度化する設備が増加するなか、その重要性はさらに増しています。新技術を活用しながら、設備の兆候管理が進み、不良や故障のない生産ロス・ゼロの実現が近づくでしょう。

※「輝2024」より抜粋

●—● 第3回 モノづくり現場発信のDX大会 開催・事例募集にあたって —●

製造業における現場主体のDXの取り組みを共有し、モノづくりにおける次世代の現場の改善活動を推進することや、今後、現場改善でも必要不可欠となるデジタルスキル・ツールについての活用方法などの理解を深めることを目的として開催いたします。

モノづくりにおいてDXの重要性が高まる一方、「投資対効果が見合わない」「現場に定着しない」という課題は後を絶ちません。

こうした中、製造現場を熟知した人材が主体となり、身近なデジタル技術や自らのスキルを活用して改善成果を定着させる「現場主体の変革」が今、強固なモノづくりを進める鍵となっています。

本大会は、現場の困りごとから生まれたデジタル改善や予知保全、高度設備の手の内化といった成功事例を広く募集し、共有・相互研鑽する場です。

業種や役割を越えて対話し、現場の「知恵とくふう」×「デジタル」がもたらす価値を共に確かめ、次の一歩へつなげましょう。皆様の発表事例のご応募をお待ちしております。

●—● 発表申込後のスケジュールについて —●

2026年12月上旬：聴講申込開始（公式サイトに公開）

2026年12月中旬：当日のプログラムのご案内（当会より）

2027年1月20日：テキスト用の発表資料提出期限(PDF)

2027年2月 5日：発表データの提出期限/当日のご案内（当会より）



熱気あふれる発表会場



時間一杯まで
活発な意見が飛び交う交流会